

甲斐の高月

まじをよけよと 小路がつつく

行きかう人が 子ほろ

車か通る 時に大型車も通る

こいづれとら完 破壊 乙途

通る人みぢが った柔長

ちやうく 花畑見に行つた

ゴッろろしっ 行つていって 見ら 小居 かつた

でも そのかわり おみこしにも似た

へいし ちれはいいお

こんちと 言ひ へおろ 通る人は

いふくちつた

自転車か なく と通ります

いふか へ 逆まどり し 程 かもとれ

昔は人も通るわつた

人か通るよちなり

車かとある

次は厚かた 氣上なる

私もこの小路を ぶらいていた

おまのぶらぶら 家でおしやうりして いたか

本夏9月の家々

今日その 建物も存く

今も多ぶらさく 店々としてい

長い河 徒ら下りて

左と有り とも 霧と有りとも変化して

かつこの知りあるは い等の

米道の すすみも 変化ある

マニニヨレ 本道ち 与らば有りなり

いれ と言ふ事

今秋は念を子々

中秋の名月 を見らるはういいな

2024
9/19